文部科学省教育課程特例校としての取組を発信するニュースレター　2026.10月

# 幼小中一貫教育研究だより　Vol.3

幼小中一貫教育をより発展させるために、レジリエンスの育成をめざした取組をしています。

## 光輝「自己の望むリーダーやフォロワーの探究」6年生

（6年担任）松林泰弘・吉田文香

### 【子供の姿・学びのストーリー】

最高学年として、6年生の歩みは期待と不安が入り混じった中でスタートしました。4月の自伸会入会式で1年生に信条を伝える際、子供達は「自分たちが信条を深く理解できていないのではないか」という問いに直面します。さらに、下級生を導く「さわやか班遠足」では、「思ったよりもうまくいかなかった」「疲れを強く感じた」という、リーダーとしての壁に突き当たった声が多く聞かれました。

当時の児童アンケートには、「周囲をまとめられないと困る」という不安や、特定のリーダーに依存してしまう実態が色濃く表れていました。

このような困難な状況下で、子供達は「本物のリーダーからコツを学びたい」という願いを抱くようになります。そこで、公的リーダーからお話を聴くという活動を核とする学びを構成しました。

様々な困難に直面したさわやか班遠足

まず、お話を聴いたのは、本校の富川校長です。富川校長からは、リーダーに必要なのは「完璧さ」ではなく、一歩引いて「**人に任せること**」や「**立場が人を育てる**」という視点、そして自ら目標を設定し行動する「**エージェンシー**」の重要性を教えていただきました。この対話を通じ、子供達の振り返りには「完璧を求めなくていいんだ」「人に頼ったり休んだりしてもいいんだ」という、プレッシャーからの解放と新たな気づきが生まれました。

次に、お話を聴いたのは、本校のOBでもある三原市長、岡田吉弘様です。市長との対話は、子供達にとって大きな挑戦（特別な体験）となりました。岡田市長からは、リーダーであっても「壁にぶつかることは数え切れないほどあった」と自身の失敗を語り、その壁を乗り越えるために「他者の知恵を借りること」や「小さな信頼と成功を積み重ねること」の大切さを教えていただきました。市長との対話の中で、子供が特に強く反応したのは「対話のあり方」でした。「1人1人、自分の意見を言いたいと思っている」という市長の言葉に、ある児童は「みんながうるさくするのは、自分の意見を言いたいという原因があるからなんだと感じた」と、他者の行動の背景を深く推察する姿を見せました。これは、単に「前を歩く」リーダー像から、困難な状況下で他者の視点を取り入れようとする「レジリエンス」の芽生えと言えます。

Hiroshima University Schools Mihara
文部科学省教育課程特例校としての取組を発信するニュースレター
2026.10月

# 幼小中一貫教育研究だより

Vol.3

## 【子供の姿・学びのストーリー】

対話後のワークシートには、市長からの学びを「新たな知識」「知っていたが使えていない知識」等に分類し、自己の現状を立ち止まって内省する姿も見られました。ある児童は「今まで優しく注意していたが、相手に合わせて厳しく言うことも試してみたい」と決意し、別の児童は「自分の思いだけで判断せず、周りの知恵を借りることで納得する人を増やしたい」と、解決策を再構成していきました。「失敗や意見の対立があっても感情的にならずに対話を続ける」。市長や校長、そして仲間との対話を繰り返す中で、子供達は困難を前向きに受け止め、他者の知恵を力に変えていこうとしている最中です。

## 【教師の語り…思いや願い】

最高学年としての役割が必然的に降りかかる6年生という発達段階は、自己の特性を理解し、社会的な自己を形成する重要な機会です。私たちは、彼らが直面する「リーダーシップ」という課題を、単なる形式的な活動に終わらせるのではなく、人生においてリーダーにもフォロワーにもなり得る自分をメタ認知的に見つめ直すプロセスにしたいと考えてきました。

本実践の基盤には、「LFS（リーダー・フォロワー・スイッチング）理論」と「立ち止まる力（メタ認知）」という二つの柱があります。リーダーシップとは固定された地位ではなく、状況に応じて柔軟に入れ替わる「役割」です。他者の意見に耳を傾ける「従順さ」や、一歩引いてサポートに回る行動も、優れたリーダーシップの一部として価値付けています。また「立ち止まる力（メタ認知）」とは、現状を新しい現実に導くための再構築のアプローチです。日々の慌ただしい活動の中で、あえて意識的に一歩引き、メタ認知的に自己を見つめ直す時間を確保することを重視しました。

学びの構造としては、不確実性の高い「大きな挑戦の道（特別な体験）」と、委員会や清掃等の「毎日の行動の道（日常の実践）」を往還させる「ダブル・トラック」を設定しました。富川校長や岡田市長との対話は、子供達にとっての「未知の知識への接触」であり、日常の実験場での試行錯誤を加速させる強力な触媒となりました。私たちが特に目指したいのは、変化や困難を前向きに受け止め、他者の視点を取り入れて解決策を構成できる「レジリエンス」を備えた子供の育成です。実態調査では、多くの子供が同調圧力や「まとめられない不安」を抱えていました。しかし、トップリーダーとの対話を通じて、彼らは「失敗は成長の糧であること」や「周りの知恵を借りる勇気」を学びました。市長からの「市長でも壁にぶつかる」という告白は、子供達に「自分だけではない」という安心感を与え、困難に立ち向かう心のレジリエンスを育む機会となりました。

文部科学省教育課程特例校としての取組を発信するニュースレター
2026.9月

# 幼小中一貫教育研究だより

Vol.3

## 【教師の語り…思いや願い】

今、子供達はOPP（一枚ポートフォリオ）を活用し、「自分が望むリーダー・フォロワー像」への回答を質的に向上させています。ある児童の「みんなも同じ悩みを抱えていると分かってホッとした」という振り返りは、特定の誰かに依存する集団から、全員が責任を持ち互いに高め合える「共同エージェンシー」の獲得へと向かっている証拠です。

これから中学生へと向かう子供達が、「自分」をしっかりと持ち、多様な他者と手を取り合ってより良い社会を創り出す。その基盤となる「自ら伸びる」「人に尽くして感謝する」という自伸会信条を、自らの行動として選択できる人になってほしい。子供達が困難を乗り越え、自己を更新し続ける姿を、私たちはこれからも粘り強く支え、見届けていきたいと願っています。

## 幼小中一貫教育研究だよりのアンケートにご協力ください。

幼小中一貫研究だよりをご覧いただきありがとうございます。
子供たちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。

アンケートフォームURL　https://forms.cloud.microsoft/r/Uu8Dgwwv7Y

## これまでの研究だよりはこちらから！

今年度の幼小中一貫教育研究を、学校園のHPに掲載しております。
ぜひご覧ください。

R8年度　研究だより掲載ページURL
https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R8kenkyudayori

広島大学附属幼稚園（三原園舎）広島大学附属三原小学校・中学校
〒723-0004 広島県三原市館町二丁目6番1号
HP: https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara